ニッセイ情報テクノロジー株式会社_スポンサートーク

「アジャイルはもうできている。次はAI」で、本当にいいのか？

― AI駆動開発で直面したParadoxと、学び続けるチームのつくり方

2026年11月13日　AgileJapan2026



目次



１．はじめに

２．AI駆動開発で見えた現実

３．学習文化醸成にむけて



１．はじめに

自己紹介

小泉　岳人



X（Twitter）：@koitake_



ニッセイ情報テクノロジー株式会社
保険プロダクト・サービス事業部　主席スペシャリスト

趣味：コントラバス

スクリーンショット・写真撮影・SNS共有 大歓迎！

開発者、ScM、POの採用募集中です！！！

ニッセイ情報テクノロジー株式会社

- 「保険・共済」「年金」「ヘルスケア」といった社会保障領域のマーケットに対して、質の高いITサービスやコンサルティングなどを提供しています。私たちの使命は、ITで“いのちを支える”産業に貢献すること。社会や生活の基盤となるプラットフォーマーを目指し、新たな価値の創造に取り組んでいます。





設立	1999年7月
事業内容	保険・金融に関するシステムサービス 医療・介護に関するシステムサービス ネットワークサービス、アウトソーシング、収納代行　等
従業員数	2,735名　（2026年4月1日　現在）

開発にAIが入り、『アジャイルはもうベース。次はAI』という考えが広がった



これからはAIだ。
より速く
アジャイル的に進めていこう！

アジャイル的とは？

アジャイルソフトウェア開発宣言	私が観測している内容
プロセスやツールよりも 個人と対話を	「どのモデル・Agentを使うか」をしっかり決めよう
包括的なドキュメントよりも 動くソフトウェアを	全社展開できる AI駆動開発ガイドを作ろう
契約交渉よりも 顧客との協調を	AIのノウハウ知財でたくさん 特許を取ろう
計画に従うことよりも 変化への対応を	会社で決めたAI利用率を 必ず達成しよう

アジャイル的とは？



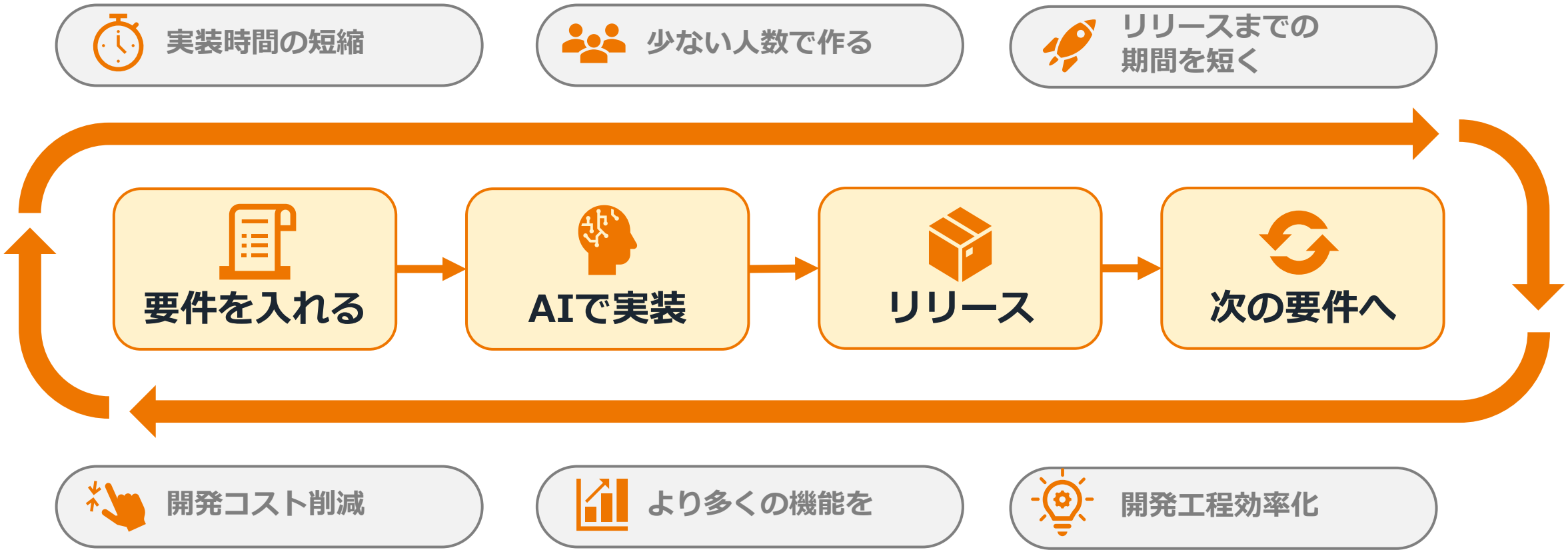
これからはAIだ。
より速く
アジャイル的に進めていこう！

このアジャイル的というキーワードは
アジャイルソフトウェア開発宣言が示す価値とは、少し違いそう

じゃあ、ここでいうアジャイルは何を求められているのか？

AI駆動開発で言われるアジャイルは？

『高速でくるくる回して、今までより速く/安くモノを作る』という期待



速く作れる、でも学べるとは限らない

AIで『作る量・速度』は一気に増える

でも

作った経験から『学べる量・速度』まで
同じように増えるわけではない

個人が学ぶ

- 試行錯誤を経験する
- 自分の思い込みに気づく
- 自分なりの判断基準が増える

チームが学ぶ

- 誰かの経験を共有する
- 個人の失敗をチームの学びにする
- 意見がぶつかり、問題の見方が変わる

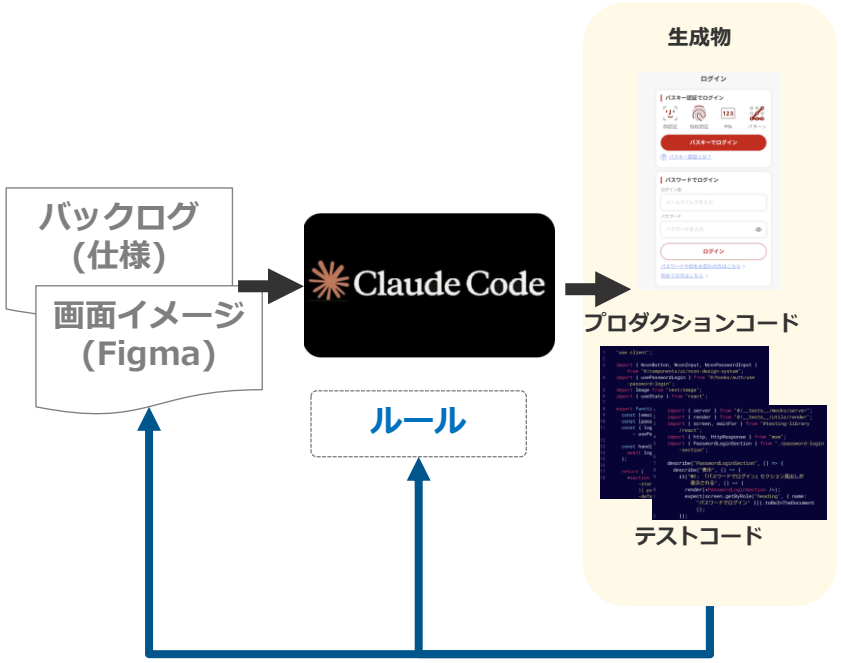
AIで「作れる」は増えた。でも「経験から学べる」は自然には増えない。



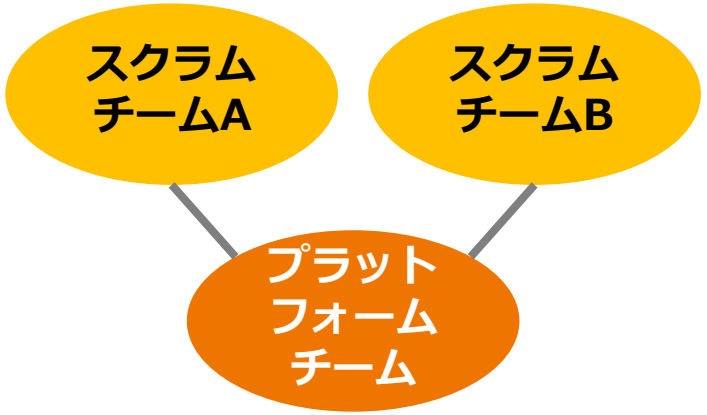
2．AI駆動開発で見えた現実

実際にAI駆動開発をやってみました

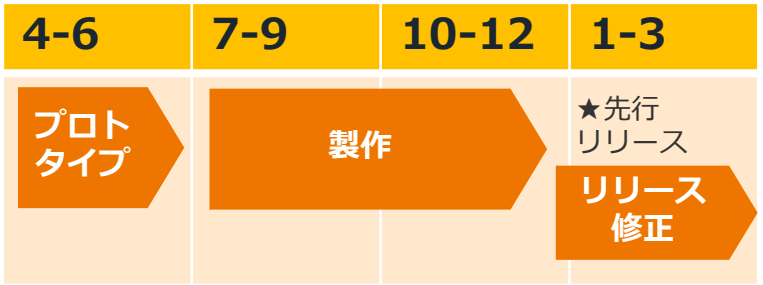
AI駆動開発



アジャイル初経験メンバーを含む複数チーム開発



1年間の新規開発



AI駆動開発で直面した悩み

Paradox：目指したかった開発とは逆に、作る速度が上がるほど、学習が置いていかれた

1 目指したかった開発

1. AIで形にする(理解負債が増える)
2. 動くもの・実例で理解/学びが進む
3. 理解負債が返済される
4. 学びをAI/ルール/設計に戻す
5. 開発が進むほど速く・良くなる

人とAIがともに成長する開発

2 実際の状況

1. AIで形にする(理解負債が増える)
2. 人の理解より先に成果物が増える
3. 理解負債が積み上がる
4. 判断・責任が曖昧になりAI依存が進む
5. 後半で手戻り・停滞が増える

AIに判断を預ける開発

AI以前と比べ、止まれなくなった



気づけない

「分からない」が見えない

- 何を確認すべきか分からない
- AI説明で分かった気になる

個人

言えない

「分からない」をチームに出せない

- 能力不足と思われそう
- 受託側として信頼を失いそう

関係性

止まれない

チームで学ぶために立ち止まれない

- 納期・タスク消化を優先
- 個人の気づきをチームの学びに変える場がない

チーム運営

AI時代、アジャイルの「適応」は自然に起きない

AIで学習が起きにくくなった



気づけない



言えない



止まれない

アジャイルの適応サイクル

検査

適応

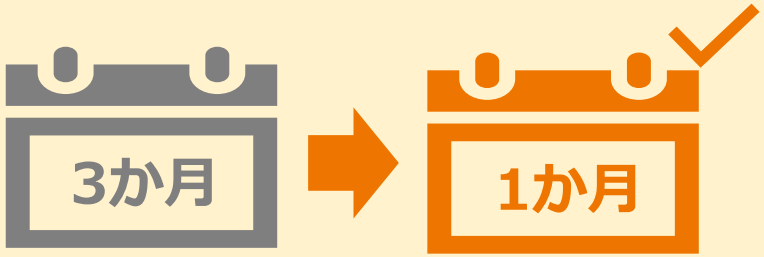
気づけない・言えない
↓
検査できない

止まれない
↓
適応できない

学習がなければ、検査・適応は回らない

でも速く・安く作れれば良くない？

期間を短縮



コスト削減



学習すること自体は目的でない

今までより速く・安く作ればそれで十分なのでは？

生産性について

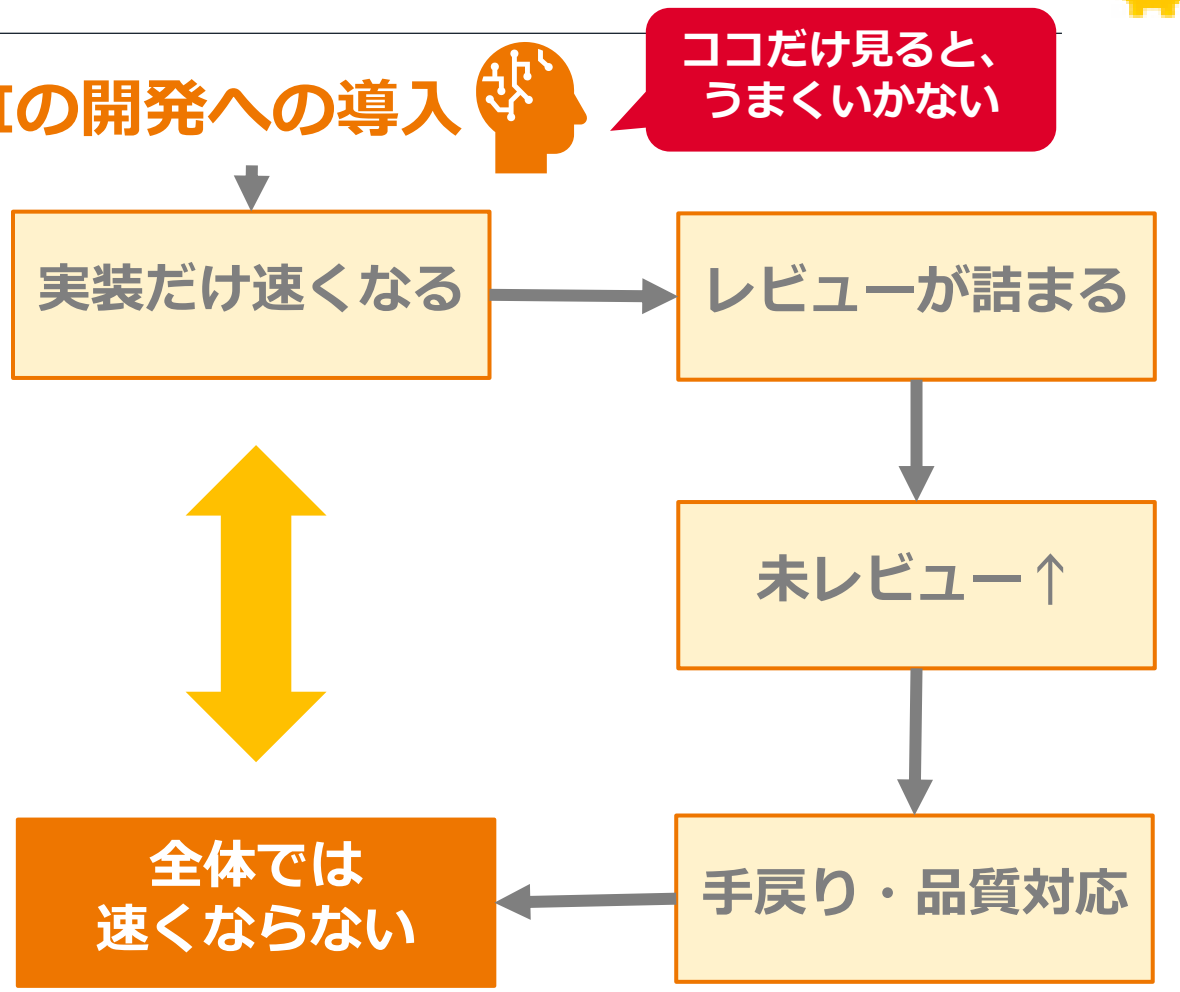


$$\frac{\text{分子}}{\text{分母}} = \frac{\text{価値}}{\text{期間やコスト}}$$

速く・安くするために学習が必要

分子　価値

分母　期間やコスト



速く・安くするにも、全体を見て学び、適応する必要がある。

より大きな価値を生むために学習が必要

AIで「作れる」ほど、「何に価値があるか」が重要になる

分子がより重要

分子 価値

分母 期間やコスト

ユーザー価値	ニーズを探索する
事業価値	持続可能な財務状態
チーム価値	楽しく生き生きと働ける
エンジニアリング価値	全体の流れを改善する
社会価値	より複雑な課題に向き合う

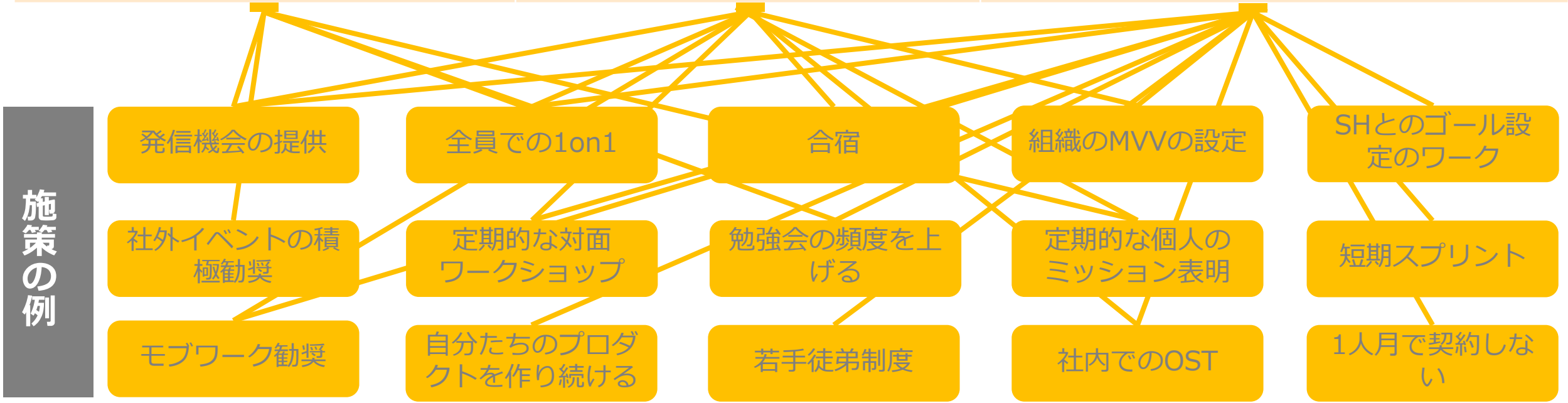
価値は最初から分からない。試して、学んで、見極め続ける。



３．学習文化醸成にむけて

われわれが取り組んでいる学習文化の醸成の仕組み

気づけない（個人）	言えない（関係性）	止まれない（チーム運営）
問いを持てる個人を育てる ※スキル・メタ認知・内発的動機	**対話できるチームをつくる** ※心理的安全性・文化（ノリ）づくり	**学べるチーム運営をつくる** ※スクラム・モブワーク・ステークホルダー調整



本日は時間の都合上2つのポイントだけ説明します

われわれが取り組んでいる学習文化の醸成の仕組み



①.発信/フィードバックをポイントにした学習文化の醸成

気づけない（個人）	言えない（関係性）	止まれない（チーム運営）
問いを持てる個人を育てる	対話できるチームをつくる	学べるチーム運営をつくる
※スキル・メタ認知・内発的動機	※心理的安全性・文化（ノリ）づくり	※スクラム・モブワーク・ステークホルダー調整

施策の例

- **発信機会の提供**
- **社外イベントの積極勧奨**
- モブワーク勧奨
- 全員での1on1
- 定期的な対面ワークショップ
- 自分たちのプロダクトを作り続ける
- 合宿
- **勉強会の頻度を上げる**
- 若手徒弟制度
- 組織のMVVの設定
- 定期的な個人のミッション表明
- **社内でのOST**
- SHとのゴール設定のワーク
- 短期スプリント
- 1人月で契約しない

①.発信とフィードバックで学習文化を育てる

学びが広がる

①学ぶ機会を増やす → ②発信を増やす → ③対話・フィードバックを増やす

社内勉強会

- 週2〜3回、動画視聴＋コメント共有

社外イベント勧奨

- 参加・登壇を積極勧奨

学びフェス

- 3か月に1回、毎日開催・LT・社外企画



リレーブログ

- 3か月に1回、リレーブログ



社内OST

- 週次MTでOSTで共有・対話

常に盛り上がっているわけではない。
でも、続けることで『普通』になっている

われわれが取り組んでいる学習文化の醸成の仕組み



②.対話をポイントとした関係性の醸成

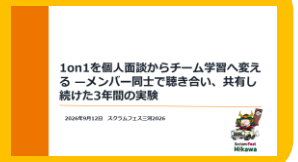
気づけない（個人）	言えない（関係性）	止まれない（チーム運営）
問いを持てる風土を育てる	対話できるチームをつくる	学びのチームづくり
※スキル・メタ認知・内発的動機	※心理的安全性・文化（ノリ）づくり	※スクラム・モブワーク・ステークホルダー調整

施策の例

- 発信機会の提供
- 社外イベントの積極勧奨
- モブワーク勧奨
- **全員での1on1**
- **定期的な対面ワークショップ**
- 自分たちのプロダクトを作り続ける
- **合宿**
- 勉強会の頻度を上げる
- 若手徒弟制度
- **組織のMVVの設定**
- **定期的な個人のミッション表明**
- 社内でのOST
- SHとのゴール設定のワーク
- 短期スプリント
- 1人月で契約しない

②.対話をポイントとした関係性の醸成

1on1＝互いに対話を学ぶ場



https://www.docswell.com/s/Insurtech-lab/58NQ2E-2026-09-12-074023

※3か月に1回

①MVVを基にして個人の目標表明

※3か月に1回

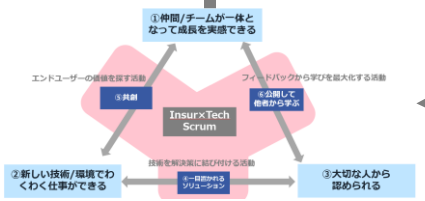
②1on1勉強会

※毎週

③全員1on1
(自律性・有能感・関係性を確認)

※3か月に1回

④全員での対面でのワークショップ



MVV/戦略見直し

⑤運営メンバーでの宿泊合宿

※年に1回

場所を変えて
時間をかけて対話



https://www.docswell.com/s/Insurtech-lab/Z8GXJQ-2024-04-22-112949

爆発的な変化ではない。
でも、対話の『文化』は少しずつ根づいている

それって時間がかかりすぎない？？



AI時代に、1on1や対話、勉強会、発信、合宿。
それって時間がかかりすぎない？

速く進み続けるために、時間のかかるものを育てる

速く“進み続ける”ための土台

気づけない
個人の問題

問いを持つ力

- 経験とフィードバックで育てる

言えない
関係性の問題

自己開示できる関係

- 対話を積み重ねて育てる

止まれない
チーム運営の問題

安全に学べる運営

- チームとSHで継続的に育てる

どれも、明日にはできない。だから育てる



つくる喜び
学び続けられるチームへ

土台があるから、速く進み続けられる

システムエンジニアの“S”を広げたい

これまで

情報システムを
つくるSE

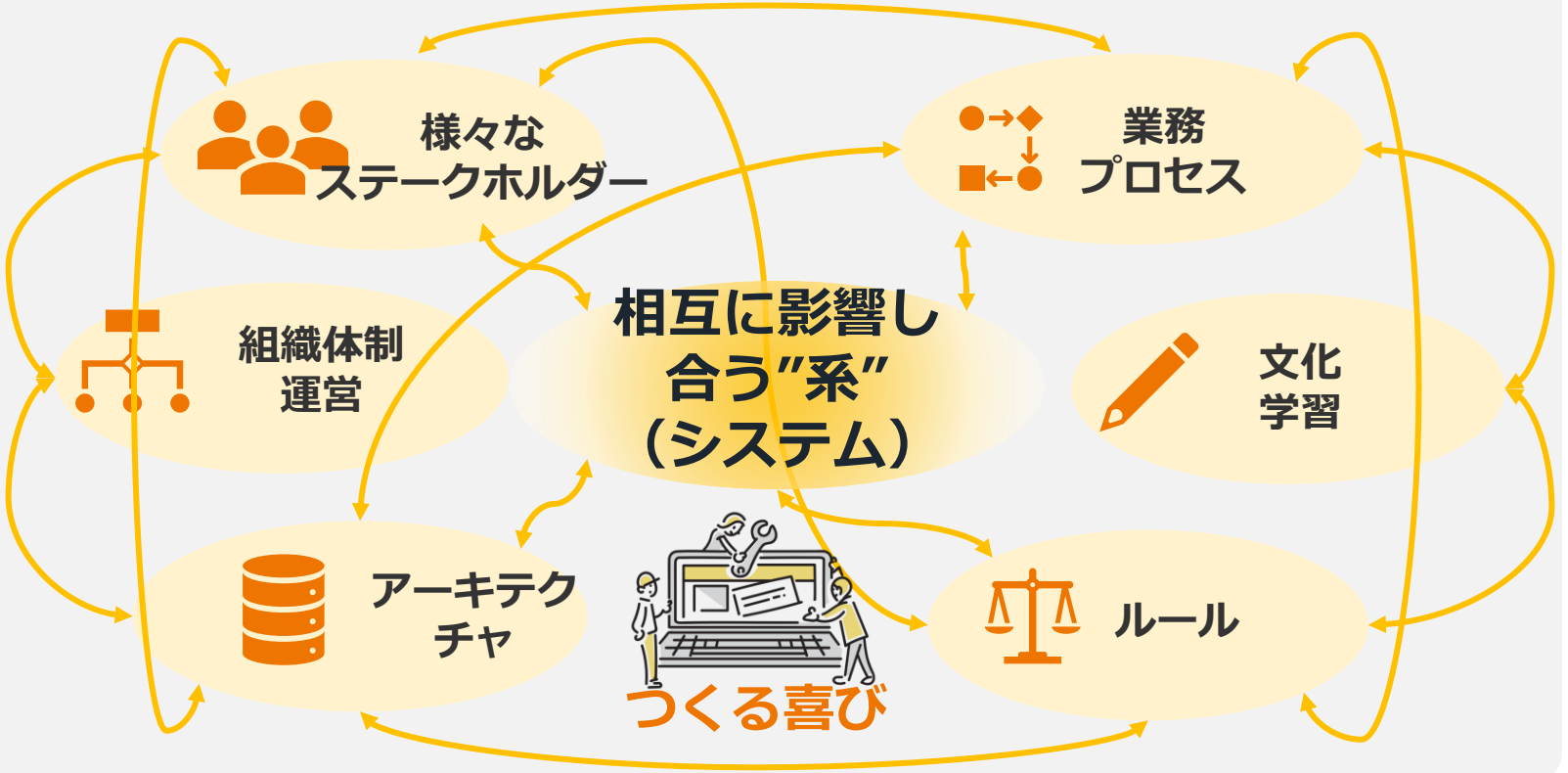


設計/開発/テスト/運用

AIで作る力が拡張

これから

人・業務・組織・技術など幅広い“System＝系”を
エンジニアリングするSE



モノづくりの喜びを起点に、SEとして、より複雑な課題を解決していく


人と向き合うIT
ニッセイITは、日本生命グループです。
保険・共済
年金
ヘルスケア
・開発
・ITサービス
・コンサル
「人と向き合うIT」で
“いのちを支える”産業・社会に貢献し続ける
ぜひ、我々のチームと一緒に働きましょう